神戸層群産の lobed-white-oak について

横　山　　章

1．化石産地

ここに発表する化石は，北須磨団地にお住いの松本賢一氏が，隣接して造成作業の行なわれている落合地域で採集され持ち帰られていた含化石標本を借用いたし，クリーニングしたところ見付けた。その後同氏に連絡の上，同行をいただき産出地点の確認をしたところ，既に造成工事のためけずり取られてしまったあとであったので，同氏に周囲の地形より判断してほぼ間違いないとの証言を得た地点を，図1の地形図上に●印をもって記入しておいた。

図1　lobed-white-oak 産出地点付近の地形図

（国土地理院発行5万分の1，神戸・須磨図幅から）

注●印　lobed-oak 化石産出推定地点

■印　その他の植物化石採集地点

2．産出地層及び層序

前述したように，産出地点は造成作業のため消滅していたので，その東にできていたがけで，露頭の状況をスケッチしておいた。

このがけも，その後削り取られ原形を止めていない。

図2のスケッチでお分りの通り，この地点では地層はほとんど水平に堆積しているが，ごくわずかに南に傾斜している，

凝灰岩層は3層見られ，その厚さは，下位のものは，約7m。中位のもの6m。上位のもの3mある。lobed-oak 産出層は，中位の凝灰岩層と推定している。（図中●印をつけておいたが，これの西側への延長面と考えていらだきたい。）

なお，この地域の地形・層序・地質構造については，神戸市および隣接地域地質説明書（神戸市・1965年）・兵庫県地質鉱産図説明書（兵庫県・昭和36年）にくわしく記述されているので省略させていただく。

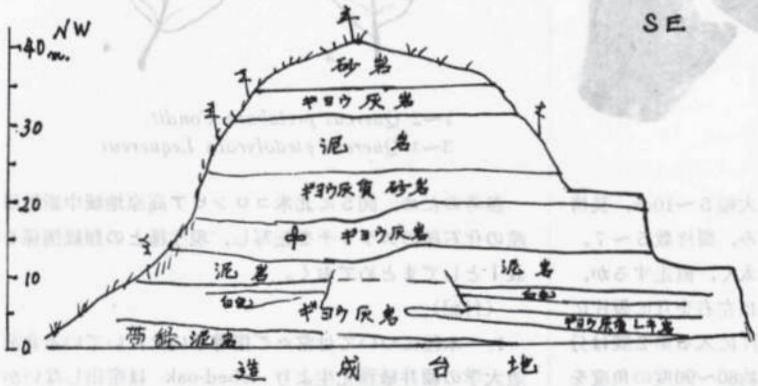

図2　産出地付近露頭見取図

3．3.lobed-oak 化石（図3，4．）

Quercus 属の化石は日本各地の第三紀層より数多くの種類が産出し，当時の化石植物相の主要構成属の1つになっているが，lobed—oak の化石種については報告がない。現在までのところ小畠信夫氏が *Quercus lba n. sp.*（神戸層群産）として発表された1種だけではないかと思う。

写真図版Ⅰで見られる通り，この種の化石葉はかたまって産出するのだが，平らにあるものは少く，多くは曲がって，かさなり合っているので完全なものを取り出

図3

図4

すのが困難であった。

葉の大きさは，長さ9～16cm，最大幅5～10cm，長楕円形，欠刻強く主脈近くまで入り込み，裂片数5～7，各裂片の先端は丸味をもつ。主脈は太く，直走するか，やや曲る。主脈より分岐した第2脈は左右交互に裂片に入り，大形の葉のものでは下方の裂片に入る第2脈は分岐後大きく側方にカーブし，主脈と約80～90度の角度をもって伸び，裂片先端に終る。上方の裂片の第2脈ほど分岐後斜上方に直走する。細脈は第2脈にほぼ直角に出，平行して走る。

葉の先端は鋭尖形。葉脚部の明らかな標本が1つしかないがそれは心形を呈している。

本化石種は欠刻の入り方，第2脈の走り方，裂片の先端部の状態等より lobed-oak に属するものと判断できるが，前述の小畠氏発表の種とは現在のところ別種と考えている。

特に葉脚が心形を示すものは，米国コロンビア高原地方産の化石種にも見当らない。

さて，北米での現在の lobed-oak は大きく2つのグループに分けられており，①欠刻のある裂裂片は円味をもち，葉縁の鋸歯には傾斜した針毛様突起のないものを White Oak Group とし，②欠刻のある裂片の先に，剌刺状または針毛様突起のあるもの。葉縁の鋸歯にも突起をもち，葉の先端部も尖っているもの。を Red Oak Group としている。

この分類法によると，本種は White Oak Group に属する。

図5

1～2 *Quercus prelobata Condit.*
3～4 *Quercus psedolyrata Lequereus*

参考のため，図5に北米コロンビア高原地域中新世層産の化石種のスケッチを転写し，現生種との類縁関係を表Iとしてまとめておく。

（付記）

1. 本種については常々ご指導をいただいている北海道大学の棚井敏雅先生より lobed-oak は産出しないかとの問い合せもあり，注意していた。早速先生にご連絡

表1．北米大陸産 lobed-oak の化石種と，類縁関係を示す表

Group 名	コロンビア産化石種名	類縁現生種 (U. S. A.) 種名（ ）は俗称	分布区域
White Oak	*Q. prelobata*	*Q. lobata* (California White Oak)	太平洋側 シェラネバダ山脈 海岸山脈
		Q. gurryana (Oregon White Oak)	太平洋側 カスケード山脈
Red Oak	*Q. psendolyrata*	*Q. kell ggii* (California Black Oak)	太平洋側 シェラネバダ山脈 海岸山脈
		Q. cocc inea (Scarlet Oak)	大西洋側 アパラチャ山脈 中央高原東部

たところ，昨年の日本古生物学会第 110回例会で，概を発表していただいた。

いずれくわしい報文を同先生より発表していただけるのと心待ちにしている。

この機会に同先生の日頃のご教示に対して厚くお礼を し上げます。

2. 会員の皆さん方の中で，この種の化石標本をご所有なっておられる方があれば，是非拝見させていただきたく，紙上を借りてお願いします。

3. 図1，■印地点からは，その後の調査中，造成作業で転石となった黒灰岩中より相当数の植物化石を採集しているが，これらについては次回に発表したい。

（S48．11．25記）